（学位請求論文　概要書）

合衆国成人教育協会の研究
―職業教育を中心とした成人教育の成立過程―

堀本麻由子

1．本研究の目的と方法

アメリカ合衆国（以下ではアメリカと略す）の成人教育は職業教育との関係において発達したことが、しばしば指摘されてきた。アメリカでは、20 世紀初期、専門的職業と言えば、医師、法律家、聖職者を中心としていた。しかし、科学と技術の急激な発展による産業の変化に伴い、専門的職業が、さまざまな領域へと拡大した。並行して各領域の専門職団体が形成され、その職能を維持するために成人への教育が始められ、それは、1926 年のアメリカ成人教育協会（American Association for Adult Education: AAAE）の設立につながっている。この時期から、「成人教育」という言葉が使用され、出版活動、情報提供が開始されているが、この動きは、アメリカにおける成人教育の萌芽期としてとらえられ、理論および具体的方法は模索段階であった。

第二次世界大戦を経た 1950 年代、好景気による国民所得の拡大、また復員軍人の大学進学率が上昇し、専門的職業への就業希望者が増大した。さらに、産業構造の変化が進み、エンジニア等の専門職業人口が増加する。同時に、平均寿命の伸長と生産年齢の延長によって、成人を対象とする継続的な教育や訓練の必要性が社会的な課題として認識された。同時期、1951 年に設立されたのが合衆国成人教育協会（Adult Education Association of the U. S. A.: AEA）であり、成人教育に関する組織的、専門的な研究、そのための調査活動、定期刊行物の発行、教育指導者の育成が検討された。合衆国成人教育協会のこうした活動は、職業教育と結び付けられる形でのアメリカ成人教育の理論的な整備をもたらしたと考えている。

本協会の事務局長を務めたのが、アメリカにおける成人教育論の典型として、現在なお広く引用されるアンドラゴジー論の提唱者であるマルカム・ノールズ（Malcolm Shepherd Knowles, 1913-1997）であった。ノールズは、主に学校教育において見られる教授方法であるペダゴジーに代わり、職業生活を営む成人のための教育学を「成人の学習を援助する技術と科学」として体系化した人物として、現在なお大きな影響力を持つ研究者である。

ノールズについては、成人教育理論の提唱者としての分析がなされ、その後の議論においても広く参照されてきているが、そもそもその理論の生成過程において、合衆国成人教育協会における事務局長としての役割を担ったことが影響を与えたのではないかとの観点からの検討は、これまでなされていない。

以上を踏まえて、本研究はアメリカにおける特徴とされる職業教育に関係づけられた成人教育論がどのような社会状況において、いかなる理論的な背景を有して成立し、一般の人々に広く受け入れられていったのかについての実証的な解明を目的として設定した。

第一に、アメリカにおける成人教育の推進において重要な役割を果たし続けてきた合衆国成人教育協会の事業を分析することで、職業教育との関係がどのような必要から生まれたものであるのか、それは具体的にいかなる事業や活動として、具体化していったのかを明らかにすることである。

第二として、合衆国成人教育協会の事業に参加していた成人たちの姿を明らかにすることである。なぜ、多くの成人が職業教育を求めたのか、その背景にはどのような社会的な要請があったのかを明らかにする。20 世紀のアメリカ社会の激動に呼応する産業界からの要請に対して、人々はどのように応えようとしたのかを検討することで、学習者及び教育者双方の利益を擁護しようとした合衆国成人教育協会の事業の教育的な意図が、深く理解できるものと考えたからである。

第三に、同協会の運営における鍵を握っていた人物が、事務局長を務めたノールズであることに注目し、その教育思想が事業の方向性を形作っていたのではないかとの仮説のもと、ノールズの言説を同協会の活動方針や刊行物等から析出し、理論的な背景を明らかにする。このことは、これまでの日本におけるノールズ研究に対しても新たな知見を加えることができると考える。

研究方法としては、文献研究による。合衆国成人教育協会の事業記録や機関誌、調査研究報告書などの一次資料に当たり、必要な箇所を筆者が翻訳しながら分析を行った。なお、本論においては、原則として「profession」を「専門的職業」、「professional」を「専門職業人」として訳語を与えている。「専門的職業」とは、その方面に関する高度な知識、技能を必要とする職業を意味し、この職業に携わる者を「専門職業人」とする。

また、「adult educators」と「educators of adults」の訳語を、「成人教育者」で統一する。1950 年代のアメリカの成人教育研究においては、「成人を対象とする教育者」について、た

とえば、ノールズは「an adult educator」、シリル・フール（Cyril Orvin Houle, 1913-1998）は「educators of adults」を使用し、論者によって異なっていた。しかし、日本の社会教育研究においては、「adult educators」と「educators of adults」を区別せず、「成人教育者」と表してきた。そのため本論では「成人教育者」の訳語を与える。ただし、文脈上、区別をした方がよい場合は、「成人教育者（原文の英語）」として示した。

2.　先行研究と本研究の意義

序章において、本研究に関わる先行研究を取り上げ、アメリカにおける成人教育論の成立と専門的職業に関する研究、さらに日本におけるアメリカの成人教育に関する諸研究において何が明らかにされているかを概観し、本研究の位置づけを明らかにした。

(1) アメリカにおける成人教育の成立と専門的職業に関する研究

アメリカの成人教育史研究には、総合的な文献として 3 点が存在する。 一つは、C. ハートリー・グラッタン(Clinton Hartley Grattan,1902-1980)の *In Quest of Knowledge*（1955）で教養教育に焦点をあてたものであり、二つには、ノールズの *The Adult Education Movement in the United States*（1962）で、制度・機関の発展に焦点をあてた内容であった。2 点に加えて、ハロルド・スタブルフィールド（Harold W. Stubblefield, 1934－）とパトリック・キーン（Patrick Keane, 1932－ ）による *Adult Education in the American Experience* (1994)が、出版されている。スタブルフィールドとキーンの通史研究は、多文化主義、人間平等主義、ジェンダーなど、マイノリティを考察の対象にしたことにその独自性があった。しかし、21 世紀の現代においてアメリカにおける成人教育史研究は、各研究者の多様な関心にもとづく研究が多く、成人教育の歴史的な役割、検討を試みた研究は少ない。

成人教育と専門的職業に関する研究においては、1920 年代から専門的職業や専門職化（professionalization）に関する研究が継続的に試みられた。そこでは、19 世紀末からの専門的職業の拡大が、第二次世界大戦後に加速し、急激な工業化と生活水準の向上、平均寿命の伸長による生産年齢の延長等で、継続的な教育や訓練が必要とされる職業（occupation）が専門職化したことが示され、1945 年から 1960 年の長期かつ安定的な好景気は、農業、製造業などの産業構造に変化を与え、1950 年代は科学者やエンジニアなどの専門職業人の不足が課題となった点が指摘されている。

1920 年代以降、専門的職業の役割が認識されるが、エデュアード・リンデマン（Eduard Christian Lindeman, 1885-1953）は、専門主義(specialism)に対する注意を喚起しつつも、専門職業人の増加による専門主義社会を見据えた成人教育概念を構想した。

ノールズのアンドラゴジー論（1970）以降、成人教育の専門職業人養成研究は、継続専門職教育(continuing professional education)に関するロナルド・セルベロ（Ronald M. Cervero）の研究、シャラン・メリアム（Sharan B. Merriam）による成人学習の理論的研究、あるいはポスト・アンドラゴジー論として、ジャック・メジロー(Jack Mezirow, 1923-2014)の変容学習論、メジローに影響を受けたパトリシア・クラントン（Patricia Cranton, 1949-2016）による変容学習論に基づく専門職養成論へ展開することとなった。

以上、アメリカの成人教育の歴史において、成人教育と専門的職業をめぐる議論は、1920 年代から現代にいたるまで重要な論点であった。その中で、合衆国成人教育協会の成人教育への取り組みは、第二次世界大戦後の専門的職業の急速な拡大期に、戦前のリンデマンの成人教育観を具体化し、発展させた取組みとして捉えられており、ノールズとの関係を視野に入れた成人教育論としての独自の発展という観点からの研究は見られない。

(2) 日本におけるアメリカの成人教育に関する諸研究

志々田まなみによる「アメリカ合衆国における Adult education 概念の形成過程」(2002)、「アメリカ成人教育協会の組織形成の理念―M.A.カートライトの構想を中心に―」（2004）において、アメリカ成人教育協会の事業や主要な役割を担った人物に焦点があてられ、成人教育概念の形成過程、事業活動に関する教養主義の影響が明らかにされているが、そこでは職業教育との関係に焦点が当てられているわけではない。

アメリカの成人教育成立史研究として、岸本幸次郎は『アメリカの社会教育－歴史的展開と現代の動向－』（1975）においてノールズの翻訳と論点整理を行い、小池源吾と藤村好美は『アメリカ成人教育史』（2007）において、スタブルフィールドとキーンの研究成果を翻訳、紹介している。成人教育成立過程に登場する人物に焦点をあてた研究には、堀薫夫によるリンデマン『成人教育の意味』（1996）の翻訳があり、堀は、リンデマンの成人教育観をアメリカ・アンドラゴジー論のルーツとして位置付けている。また、成人の特性において、ノールズがその心理的特性に着目したことに対し、リンデマンは社会性と歴史性に着目し、社会的行為への志向をもっていたとして、ノールズとの違いを指摘した。

藤村好美は、「社会教育の成人教育に関する一考察」（2005）においてリンデマンの社会変革思想に着目し、マイルズ・ホートン の民衆教育思想との系譜についても論じている。

一方、20 世紀前半の個別の主題に関する史的過程の研究もみられるが、職業教育と成人教育の関係に関する研究は十分に進展してこなかった。たとえば、安藤真聡「モーティマー・J・アドラーの成人教育論」（2007）は、グレイト・ブックス運動と成人教育論の形成過程の関係を取り上げ、アドラーによる非職業的なアダルト・リベラル・エデュケイションの成立過程を明らかにした。また、大学拡張部の生成過程に関する研究に、五島敦子「第二次世界大戦後アメリカの大学における成人学生の受容過程」（2014）があり、高等教育における大学拡張部の教育的意義を明らかにしている。

1970 年以降のノールズのアンドラゴジー論については、1980 年に出版されたマルカム・ノールズ／堀薫夫、三輪建二監訳『成人教育の現代的実践 : ペダゴジーからアンドラゴジーへ』（2002）、1990 年に出版されたマルカム・ノールズ／堀薫夫、三輪建二監訳『成人学習者とは何か : 見過ごされてきた人たち』（2013）が翻訳、紹介された。さらにノールズの自己主導型学習論に着目した、井上豊久「M. S.ノールズの SDL の研究」（1999）は、ノールズの自己決定学習理論の詳細を検討したものであり、同様の試みに渡邊洋子・京都大学 SDL 研究会訳『学習者と教育者のための自己主導型学習ガイド』(2005)がある。

メリアム他による成人学習理論に関しては、立田慶裕・三輪建二監訳『成人期の学習―理論と実践』（2005）、立田慶裕他訳『成人学習理論の新しい動向』（2010）においてアメリカにおける成人学習論研究の動向に関する翻訳と論点整理が行われた。

変容的学習に注目したものに金澤睦・三輪建二監訳『おとなの学びと変容―変容的学習とは何か』（2012）、入江直子他訳『おとなの学びを拓く―自己決定と意識変容を目指して』（2003）と、入江直子他訳『おとなの学びを創る―専門職の省察的実践を目指して』（2004）があり、変容学習に基づく専門職養成論が紹介されている。また、メジローによる変容学習論については、常葉-布施美穂「変容学習論―J. メジローの理論をめぐって」（2004）がある。

アンドラゴジーの理論的発展として成人教育と企業内教育の関係を検討した堀薫夫「アンドラゴジーと人的能力開発論」（2004）、「アンドラゴジーにエイジングの視点を組み込む教育老年学」（2022）、渋江かさね『成人教育者の能力開発－C.クラントンの理論と実践』（2012）があり、1990 年代から 2020 年代の今日にいたるまでアメリカの成人の発達と学習論の視点から、アメリカの成人学習理論の意義が継続的に検討されてきた。

加えて、1970 年代末からノールズのアンドラゴジー論については、池田秀男「社会教育の理論構造－M.　ノールズのアンドラゴジィ・モデルの研究－」（1979）、木全力夫「M. S. ノールズのアンドラゴジー構想からみた共同学習論の課題」（1992）、郭恵芳「マルカム・ノールズの成人教育論の生成過程についての一考察」（1999）、赤尾勝己「アンドラゴジーの展開」（2004）、永井健夫「成人学習論としての省察的学習論の意義について」（2004）などの研究があるものの解説的な内容や、論争や批判の紹介にとどまっており、1950 年代のノールズの具体的な実践と研究に基づく実証的な研究ではない。さらに、アメリカにおける成人教育論の成立を専門的職業との関係からの研究も未着手である。

以上、日本におけるアメリカの成人教育研究は、主として社会変革、市民的活動への関心に基づくものが多数であり、1970 年代以降の成人の発達と学習論に基づく社会教育専門職員養成の視点からの研究であった。アメリカの成人学習論に関する研究の蓄積が進んでいる一方で、成人教育の成立過程を職業教育との関係から捉えた研究が不十分である、というのが本研究に着手した理由である。

3.　本論の構成と考察の概要

以下の構成に従い、考察を行った。

序章　本研究の目的と構成

第一章　アメリカの成人教育の成立と職業教育団体

1.　19 世紀末～1920 年代―産業社会成立と職業生活にかかわる成人教育
2.　1921～1950 年代―成人教育活動を担う諸機関の展開
3.　1926～1951 年―成人教育の全国組織の登場と発展
4.　1910～1950 年代初期―進歩主義成人教育と専門主義

第二章　アメリカの専門的職業の拡大と成人教育の関係

1.　20 世紀前半アメリカ社会の専門的職業拡大の様相
2.　成人教育分野における専門的職業と専門職化の議論の変遷
3.　1950 年代の合衆国成人教育協会と専門的職業

第三章　合衆国成人教育協会の設立

1.　合衆国成人教育協会(1951-1982）の設立過程
2.　合衆国成人教育協会設立期の事業目的と教育内容

3. 合衆国成人教育協会と成人教育の形成過程

第四章　機関誌 *Adult Leadership* にみる成人教育像

1. 合衆国成人教育協会における *Adult Leadership* の位置づけ
2. *Adult Leadership* の創刊目的とノールズの関わり
3. 読者投稿欄にみる成人教育像―読者とのコミュニケーション方法と投稿内容の分析
4. 成人教育の性格と成人教育者の実像

第五章　1950 年代の合衆国成人教育協会と成人教育の方向性

1. 合衆国成人教育協会の方向性検討調査プロジェクトの概要
2. 方向性探索プロセスの予備調査―「社会概念と方向性探索」委員会報告書
3. 「方向性探索コンサルティング」委員会報告にみる「成人教育のリーダーシップ」の位置づけと特質
4. 「成人教育における全国組織の役割」報告書の検討―成人教育と専門的職業の関係
5. 合衆国成人教育協会と成人教育の方向性

第六章　ノールズの成人教育観―合衆国成人教育協会の事務局長として

1. ノールズとフールの成人教育観の背景―共同研究者としての取り組み
2. フールの成人教育観と専門職業人教育
3. 1950 年代のノールズの成人教育観―事務局長としての事業との関わり
4. ノールズの成人教育史研究にみる成人教育観―専門的職業との関わり
5. ノールズの成人教育観の生成―事務局長時代の実践・研究との関わり

終章　各章の成果と結論

以上が、本論の構成である。各章の概要は以下のとおりである。

第一章、アメリカの成人教育の成立と職業教育団体において、1950 年以前の成人教育分野の職業教育、および全国組織の動向を把握することで、1950 年以前の成人教育と専門的職業の関係についての認識を明らかにした。

一点目としては、20 世紀初期は、イギリス・ヨーロッパ型の成人教育の伝統に影響を受けつつも、アメリカの成人教育が後に、職業的特質をもつ萌芽期であったことである。第

一次世界大戦、大恐慌、第二次世界大戦という社会の大きな変動期において、成人教育の機能を有する多様な機関が生じ、専門職団体、専門的職業に従事する人々が増加したことであった。

二点目は、多様な機関や専門職団体は、それぞれに成人を教える機能を備えていた。そのため、成人教育機能をまとめようとする全国組織であるアメリカ成人教育協会と NEA 成人教育部が 1920 年代に登場し、成人教育に関する専門的な研究、出版活動、教育指導技術に関する情報提供を開始した。

三点目として、1920 年代半ばの進歩主義とデューイの影響を受けたリンデマンら成人教育者が登場し、アメリカ社会における成人教育像の大きな目的を示したことであった。そのことは、成人の実生活の状況に即した学習を重視するアメリカ独自の成人教育概念の生成へとつながり、1950 年代以降のアメリカの成人教育論の成立とかかわりがあったことが明らかになった。

以上の三点から、産業構造の変化に伴う大きな社会変動を経験した 1920 年代から 1950 年までは、専門的職業との関わりを持つ成人教育の萌芽期としてとらえられる。

第二章では、1950 年代の専門的職業の拡大と成人教育に関する議論の展開を明らかにした。

1945 年から 1960 年の、長期かつ安定的な好景気下において、農業、製造業などの産業構造の変化に起因する専門的職業が増加した。また、国民所得拡大と平均的な分配が、大学への進学率を上昇させ、大学に入学することで若者は、高度なスキルを求める専門的職業へ就職することを目指した。さらに、第二次世界大戦後の復員軍人の高等教育への進学を政府が支援したことで、若者だけでなく成人（復員軍人）も専門的職業に就くことを目指し、専門職業人増加の要因となった。

こうした状況を受けて、1950 年代において専門的職業の機能や専門職化に関する議論が活発化した。成人教育研究者たちのなかには、職業と専門的職業を区別する研究者もいた。他方、職業と専門的職業の区別はあいまいなものであるとし、あらゆる職業が継続的な教育活動によって、専門職化する可能性があると考える研究者たちがいた。

また、合衆国成人教育協会の事業活動の多くが、多様な専門職業人に向けて行われ、伝統的な専門的職業の状況と異なる成人教育の実践者像が確認された。具体的には、1930 年代から大学院教育において、成人教育の専門職業人養成が開始され、1950 年代末には、複数の専門的職業群の中に役割をもつ成人教育の固有の性格を、成人教育研究者たちは見出し

た。このことは 1950 年代に、専門的職業における成人教育と成人教育の専門職化を議論する具体的な実践と研究の検討過程があったことを示すものであった。

第三章では、合衆国成人教育協会の発足とその展開の意義について、その事業目的と教育内容からの論証を目指した。特に、合衆国成人教育協会の設立期（1951－1959 年）に着目し、専門的職業と専門職業人の増加に対応した事業内容と教育内容を検討することで、以下の三点が明らかになった。

一つは、1950 年代を通じて合衆国成人教育協会は、成人教育者の技術や能力を高める教育事業を行うことを主たる目的としたことであった。それはかつてアメリカ成人教育協会が行った全国組織が求める教育事業を行うことではなく、成人教育者たち自身が求める教育事業を、民主的な運営によって行うことを意味していた。

二つは、当時急増した専門的職業における成人教育者たちを広く会員として受け入れるために、専門職会員制度を新設したことであった。会員制度新設は、より広い分野で多くの成人教育者が協会の事業に参加し、成人教育の理解を深めることを促した。また、出版事業や分科会事業への参加を通して、成人教育者たちが、成人教育の専門性を高めていくことを援助しようとした。

三つは、協会の目指す成人教育の専門性を確認したことであった。その専門性とは「成人教育に関連したより社会的、哲学的な学問領域を熟知し、人間の成長と問題解決を援助する技能（the arts of facilitating）」であった。協会は、専門性養成のための民主的組織の構築を目指し、1950 年代の事業活動を通して、「実験」と称した事業活動を継続した。

第四章では、合衆国成人教育協会の機関誌の一つである *Adult Leadership* (Vol. 1-25, May 1952- June 1977: 以下、AL 誌と表記）に着目し、AL 誌の初期の編集活動のありかたと読者の投稿内容から、成人教育者の実像を明らかにした。

合衆国成人教育協会は、全国組織と地方組織をつなぎ、読者である成人教育者たちの課題解決を援助する組織であろうとした。その主たるコミュニケーション手段が出版事業の AL 誌であった。1952 年から 1958 年の同誌は、協会の事業目標である民主的活動、すなわち編集者と読者間、読者同士が集う双方向コミュニケーションに基づいた探究の場であった。ノールズは、同誌の初期の編集者として、後に合衆国成人教育協会幹部として、編集活動を支えた。

AL 誌の民主的かつ具体的な共同編集活動の内容から、以下の、成人教育像が示された。

一つは、様々な専門的職業や社会活動における成人教育者の多様な属性であった。そのことは成人教育が、多様な専門的職業群の中に位置付けられることを示すものであった。また属性の多様な成人教育者たちの実践に基づいた投稿内容は、後の成人教育の知の体系構築の基盤となる内容でもあった。たとえば、成人教育者たちは、より学びたい、知りたいという探究心を持続し、自律的な学習機会を求めていた。そのため AL 誌上の読者は、教育者としての自らの権利の確保よりも、仕事の中で直面している課題解決のための技術を獲得し、能力を養成したいと考えており、成人の自律的な学習特性を明示していた。

二つには、成人教育者としての専門性を高めることは、一般的な専門職化の過程とは異なる特質をもつことが明らかになった。投稿内容にみる成人教育者たちは、専門職業人、アマチュアを問わず成人を教える技術や能力において、豊富な経験やそれにもとづく専門的知見をすでに備えていた。そのため最初に知識を習得した上で、基礎的な実践経験を積む職業準備教育ではなく、実践経験を踏まえた専門職業人養成プログラムを求めていた。たとえば、いわゆるアカデミックな専門用語による教育ではなく、実践経験との接合を見出す教育活動を期待していた。

一方、AL 誌の活動は、民主的な運営と専門性を高めることの両立の難しさを表出させ、結果として、1950 年代末には、組織としての財政的基盤を失い、出版活動などの組織活動をボランティア運営に頼ることとなった。しかし、その過程で、様々な立場や専門的職業、社会活動における成人教育者と指導者たちが AL 誌上に集い、成人教育の課題を議論し続けた。加えて、その議論の場の構築を、ノールズを含む協会のリーダーたちが「援助する（facilitating）」活動の中で、成人教育者たちの実像を捉えることができたといえる。

第五章では、1950 年代の合衆国成人教育協会における成人教育の理論形成を跡付けた。1954 年から 1959 年に実施された調査研究プロジェクト「成人教育の方向性探索プロセス（Direction Finding Process）」に関連する三つの報告書「『社会概念と方向性探索』委員会報告書（1957 年 1 月）、『合衆国成人教育協会方向性探索コンサルティング』委員会報告書（1957 年 9 月）、『成人教育における全国組織の役割』報告書（1959 年）」を対象として、成人教育論の成立過程について論じた。

分析から明らかになった成人教育の方向性は、以下の三つである。

一つ目は、様々な専門的職業における成人教育者のリーダーシップ論である。ここでのリーダーシップ（指導的役割）とは、職業の種類、職位によって示されるものではなく、教育への関心や関与の程度によるものであることを示した。

二つ目としては、アマチュアを含む成人教育者たちの専門性を養成する方法の探究である。成人教育者たちは、自分たちの仕事の中で継続的に学び続け、成人を教え、指導するためのより高い能力、すなわち専門性を高めるために学び続けたいと考えていた。一人ひとりの実践上の関心、関与に基づく専門性を高めることを、合衆国成人教育協会が使命として捉えていたことを確認した。

三つ目は、成人教育の今後の方向性を、当事者である成人教育者たち自身が決定していくことであった。すなわち自らも学習者である成人教育者の関心、関与に基づいた活動にしていくことを示すものであった。

ブルンナー他は、その報告書において、合衆国成人教育協会が設立以来、成人教育の技能と知識について議論を通して体系化を進めてきたことが、調査において成人教育者たちから評価されていたことを指摘している。また、合衆国成人教育協会が、様々な職業や社会活動における成人教育の共通かつ汎用的な知を見出すことこそが、全国組織である協会に要請されるとした。調査プロジェクト活動そのものが成人教育の知の体系化への糸口となり、アメリカの成人教育論成立の一翼を担っていた。

ノールズは、本調査プロジェクトに合衆国成人教育協会の事務局長として 7 年間かかわり、合衆国成人教育協会の事業を通して、調査研究プロジェクトに積極的に関与した。1920 年代からのアメリカ成人教育協会、NEA 成人教育部、合衆国成人教育協会の 50 年にわたる成人教育への組織的貢献について、実質的に成人教育分野に結束と専門意識を育成することができたとノールズ自身は評価した。

第六章では、合衆国成人教育協会におけるノールズの成人教育観の生成過程について明らかにした。本章で検討した 1950 年代のノールズの成人教育観は、専門的職業に向き合う合衆国成人教育協会の事業の中で、リンデマンの成人教育思想、フールの実践の科学に基づく専門職業人教育構想の影響を受け、形成されたものであった。

ノールズの成人教育観とは、生活上の経験を包含し、成人を教える活動を統合的にとらえることであった。また、成人を教える活動を統合的にとらえる成人教育者の専門性とは、成人の学習の自由（liberation）を援助することであった。このことは、アンドラゴジー論の中核となる「成人の学習を援助する技術と科学(the art and science of helping adults learn)」の概念につながるものであった。ノールズは、成人の学習の自由を援助するためには「教育的コミュニティ(educative community)」の構築が必要であり、教育的コミュニティに参加するあらゆる人々は、「いつでも部分的に教師であり、部分的に学習者である」ことが求め

られていると考えた。教育的コミュニティ構築を援助する能力とは、成人教育者に要請される専門性であり、リンデマンが問題提起した専門主義社会における成人教育像のあり方への応答でもあった。子どもの教育から生み出される教育者像は、成人にとっても根強いものであるため、成人教育の実践現場に緊張関係を生み出す。そのため緊張関係を調整する（コーディネートする）能力が、成人教育者の専門性として求められるとノールズは考えた。緊張関係を調整する能力は、合衆国成人教育協会の事務局長として、事業実践の中での教育者と学習者、たとえば専門職業人や研究者とアマチュアの間の緊張関係を調整するノールズ自身の実践の中で獲得された技術と能力であった。協会の事業活動を通して、成人教育への関心、関与を題材とし、様々な職業や社会活動に従事する成人教育者たちの「議論を続ける（talk it over）」場を構築し、民主的な運営と専門性を高めていくことの両立に挑戦し続けたノールズの実践知であったともいえる。

ノールズは、1950 年代の合衆国成人教育協会による成人教育者たちとの共同的な事業の中で、成人教育の性格と実像を追究し、「専門家(specialists)」による専門分化した社会における成人教育の方向性を形作った。ノールズの成人教育観とは、成人教育に関心をもち、関与するあらゆる成人教育者が、問題解決に向けて協同する技術と能力（協同のアート）を養成する教育的活動であった。

本研究で論じた 1950 年代は、職業の専門職化が生じ、専門職業人が増加する社会変動期において合衆国成人教育協会の事業活動そのものが、成人教育の性格を形成し、その実情を明らかにする過程であった。ノールズとフールは、実践と理論の両面から成人教育運動の拡大と成人教育の専門性を追究し、成人教育者の実像を明らかにした事業に関与することで、成人教育の方向性を形成した。そしてその活動過程が、職業教育に関連する成人教育論成立への契機となった。

各章の考察の成果は以上である。

4. 結論

以上の考察をふまえて、本研究の目的であるアメリカにおける成人教育の特質をその歴史的及び理論的な観点から明示するための三つの課題、すなわち、1950 年代の合衆国成人教育協会の事業の教育的意図、合衆国成人教育協会の事業に参加していた成人たちの実像、

および、ノールズの成人教育思想と事業活動との関連、に応答する。本論の結論は、以下のとおりである。

第一の課題である、合衆国成人教育協会の事業の教育的意図とは、協会が、成人教育の実践者のための全国組織として活動を行ったことであった。それまでのように職能団体の中での教育に側面から関わる活動ではなく、成人教育の実践者である成人教育者のために特化した取り組みを行ったことを明らかにした。具体的には、成人教育者としての職業生活における問題認識を把握し、協会の事業に反映していくことであった。たとえば、機関誌 *Adult Leadership* による読者との共同編集活動であり、AL 誌上は、成人教育の課題を成人教育者たちと議論し続ける活動のための集いの場であった。また、調査研究プロジェクトは、成人教育の方向性を、会員である成人教育者たち自身が、議論の過程において見出していく民主的な活動であった。つまり、1950 年代の合衆国成人教育協会の発足と事業の展開は、民主的な運営と専門性を高めることの両立を目指した教育活動であった。

第二の課題である成人教育者たちの実像として、様々な専門的職業や社会活動において成人の教育に携わる成人の姿が見出された。協会は、事業活動に参加する成人教育者たちの関心や関与に基づいた学習要求を把握し、彼ら、彼女らのための教育活動を確立した。その際、成人教育者像は、一つの専門的職業として括られるわけではなく、多様な専門的職業群に属する成人を対象とすることから生じる多面的な教育機能が含まれる、という立場であった。

また、事業に参加していた成人教育者たちは、豊富な経験とそれに基づいた専門的知見を実践の中で獲得している。したがって、彼ら、彼女らが求めていたのは、職業準備教育として基礎的な知識を得ることのみでなく、実践における経験を活かしながら継続的な教育活動を担うことを可能とする力の獲得であり、自らにも生涯にわたって継続的に学びつづけることを課していた。

第三の課題であるノールズの成人教育思想と事業活動の関連については、ノールズが、成人教育者のための事業活動を事務局長として統括する立場にあり、その実践経験を通じて独自の成人教育観を形成していたことが示された。ノールズは、成人教育を「個人、集団の学習につながるあらゆる生活経験を実践的に包含する」と捉え、成人にとっては、職業生活を含むあらゆる生活経験が個人、集団の学習につながることを指摘している。ここで、職業生活を成人の学習の中に据えていたことは、活動の場であった合衆国成人教育協会の構成員たちが、多様な職業における成人の教育を担う専門家たちであったことに起因

していたことを明らかにすることができた。

また、成人教育者の専門性については、「成人の学習の自由（liberation）を援助すること」と述べ、学習の自由を援助するための「教育的コミュニティ(educative community)」を創造する技術と能力を専門性の中心に位置づけた。1950 年代の合衆国成人教育協会を通じて培われたノールズの成人教育観は、後のアンドラゴジー論（1970, 1980）の基盤概念「成人の学習を援助する技術と科学」につながるものとなった。

以上、1950 年代の合衆国成人教育協会の事業は、成人教育者を対象とした民主的な活動によって、成人教育の専門性とその養成方法を追究したことにその独自性があった。一方で、民主的な運営と専門性を高めていくことの両立は、事業に参加する成人たちの間に緊張関係を生み出し、様々な職能集団において教育活動を展開する成人教育機関の連携と協力を掲げた協会の目的達成への道程を難しくしたことも事実であった。

1950 年代を通して協会の目的がすべて達成されることはなかったが、協会は、あらゆる職業に関与する成人教育者に関心を持ち、事業を通して成人教育の課題を開示し、議論し続ける場を提供した。さらに、そこに集う成人教育者たち自身が持つ学習者としての要求に応える教育活動を援助することで、成人教育の理論形成に一定の方向性を与えるものとなった。1950 年代の合衆国成人教育協会の事業活動そのものが、継続教育としての職業教育のあり方についての試みであり、その試みが職業教育のための成人教育論が成立する契機となった。

本論をふまえた今後の研究課題として、以下を挙げたい。

職業教育のための成人教育論の確立は、日本の生涯学習における現在の課題の一つである。1990 年代以降の生涯学習政策によって、成人の生涯学習は、一定程度進展したとされる。しかし、大部分の職業教育は企業内教育として実施され、成人の生涯学習は余暇・教養活動としてみなされている。職業教育が企業内教育で実施されたのは内部労働市場、性別役割分業などいわゆる日本型雇用システムを背景としたものであり、正規雇用者以外は、職業教育を受けることができないという大きな課題を生じさせた。さらに余暇・教養活動として捉えられてきた生涯学習の性格は、学習の受益者負担論を支え、成人の学ぶ権利の公的保障が脆弱な、いわゆる日本型生涯学習の背景にもなっている。

近年の労働政策における高度なスキルと知識の獲得に即した変化は、生涯学習政策とも密接に関連する。そのため、職業教育のための成人教育が政策としても注目され、成人教育

理論、実践面での研究が要請されている。本研究では、アメリカの産業構造の変動期に、専門的職業の拡大に着目し、成人教育の役割を探究した合衆国成人教育協会の事業活動内容を明らかにした。1950 年代の合衆国成人教育協会による実践者との共同の探究過程は、職業教育のための成人教育論成立の契機となったことが明らかになった。1950 年代のアメリカの成人教育にかかわる実践者と研究者による職業教育と成人教育の関係をめぐる共同的探究過程は、日本における職業教育のための成人教育の再考に示唆を与えるものであると考える。